

400余年の伝統

福島県二本松市針道

諏訪神社例大祭

針道のあばれ山車

開催日 10月9日(日) (山車もみ)

時 間 午後1時30分～午後3時30分



圧巻 “あばれ山車”

7台の山車が激突



日 時 令和4年10月9日（日）午後1時30分から

場 所 福島県二本松市針道地内 針道商店街目抜き通り

◎諏訪神社

信州(長野県)の諏訪湖畔にある諏訪神社を天平年中(紀元730年頃)移したもので南向きの普通のお宮が多い中で、諏訪神社は北を向いたお宮である。

武社であるから陸奥の国の開発を目的として建てられた神として北を向いているのであろうと言われている。

◎諏訪神社例大祭 山車もみ(あばれ山車)

諏訪神社の祭礼が正しく記録されたのは、寛保、宝暦頃からで、宝暦8年(1758年)この地方一帯に凶作が続いて疫病が大流行した際、当時の人々は、災いの原因は、神輿渡御を永い間行ってこなかったことにあると考え、神輿渡御を復活させた。

この時、安積郡大槻村(現在の郡山市大槻町)から、獅子頭を買い求め、神楽を行ったとされている。その頃、人形を飾り付けた山車、獅子踊りを奉納したのが、この「あばれ山車」の始まりと伝えられている。

その後、安永元年(1772年)には幕と人形道具一式が三社に奉納されたが、天明の凶作によってしばらく中断し、天明8年(1788年)にようやく盛大に祭礼が復興した。

寛政年間(1790年)は人形に美しく飾り付けた屋台とともに、「にわか」という文字通り即興の狂言芝居を行ったと言われている。

昔は旧暦の7月27日～29日に行われていたが、大正15年より10月6日～8日となり、その後10月8日～10月10日となった。

現在は、スポーツの日までの3日間行われ、山車もみは日曜日に行われる。毎年10月に行われる祭りは「針道のあばれ山車」として若者の独創による大型人形の飾りに成長し、豪快な太鼓の音と若者の勇ましい掛け声が七台の山車を扱う若衆を活気だたせ、山車のもみ合いにも力が入り、その勇壮さは、近郷近在から集まる見物客を楽しませてくれる。



お問い合わせ 東和観光協会 TEL 0243-66-2490